会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 平成３０年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」Ⅰ．教職員の資質能力向上の推進　（ⅱ）教職員研修プログラムの構築事業 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第4回学習評価研修WG |
| 開催日時 | 2018年12月5日 14時〜17時 |
| 場所 | リファレンス駅東ビル 3F H-5 |
| 出席者 | 委員：岡村慎一、植上一希、佐藤昭宏、小田茜、瀧本知加、近藤賢宏、佐伯京子、森佳奈枝 |
| 議題等 | ○基礎編プロトタイプに関する指摘◆全体として・パワーポイントとテキストを作る。12月18日を目途にサンプル教材を作成する。・実践時に振り返りが出来るようなものを補足資料として作る必要がある。・具体的で極端な事例（バッド・グッド）を出した方が分かりやすい。・徹底的にダメということが伝わるような解説に。すぐに取り込めるような改善例を示す。・事例を比較するやり方。グッドプラクティスを参考にしながら補足していく形で改善点を示す流れで検討する。・専門学校教員が使用するような言葉やセリフを使用していく。コンピテンシーや社会人基礎力、人間性等。◆導入～：植上・植上担当箇所で取り扱う事例を研修で集めて分厚くする。・プロトタイプ研修後にアンケート等で情報収集し、再度担当者から聞き取ることも検討する。・座学に対する評価が前提とされている。実技ベースの教員や科目（個人型の評価）にも対応できるようなものを取り入れる。・実技重視の教員も意識的に受講できるよう実技評価にも落としていく必要がある。・しっかりと評価していく必要性を理解してもらうためにも植上担当箇所の政策的流れの話を厚くする。・受講者が自分自身と結び付けながら考えることができる構成にする。・教員側のメリットをしっかりと提示する。学生が成長する、効率化に繋がる一助となる、時間を有効に使っていくことができる等。（◆学生の学びを評価する：瀧本・国家試験や資格試験対策の観点だけでなく学生の学びを重視した観点を持つように考えられるような構成。（・受講者が評価の多様性とその効果を理解できるように設計する。・取り扱われている図が何を意味しているのかといった点を明確に示していく必要がある。補足説明が必要。・P.8の内容は「専門学校生の多様性に応じた形で多様な評価の観点が必要となる」という流れになるため、それまでの前段階の事例を引き継ぐと受講者の負担となる。そのため取り扱う事例を分ける必要がある。・流れを評価の種類と具体的方法と分けて記述する。◆授業・指導改善のための評価：佐藤・そもそも目標が設定されていない/目標は設定されているが…という事例が必要となる。・ストーリーとしての細かな枠組みを統一する。・こまめに学生にアンケートを取り、評価、その都度授業改善することを習慣づける。・Aの話は抽象度が高く少し難しい。教員が評価の時系列とその関係性について考えることを身に付けさせる。・基礎編の総括とそれに際して目標設定が必要となる。〇アンケート内容（プロトタイプ施行用）・改善を前提とした課題抽出のためのアンケートなのか有用性を示すためなのかを問う。・事前事後で実施。本研修終了後の意識変容といったエビデンスを出す。・全専研：3カ年後エビデンスとして出せるようにする。継続していくためにも。〇今後のスケジュール・12月 14日までにテキストとパワーポイントを作成・プロトタイプ実施日程は、学校と担当委員とで調整する。・第5回WG　1月16日　リファレンス駅東・第6回WG　2月15日　追って連絡 |

以上